

# 東京タワー



- 東京タワー 2.63km - 宮中三殿賢所 - 築地本願寺 2.63km
- 筑土八幡神社 2.63km
- 東京ドーム 2.63km

## 皇居 宮中三殿 賢所

宮中三殿は、皇居内にある三つの連結された建造物の総称である。それぞれ、神道の神を祀っており、宮中祭祀（皇室祭祀）の中心となる。宮中三殿の構内には、附属するいくつかの建造物が配置されている。四方拝、新嘗祭が行われる**神嘉殿**（しんかでん）、鎮魂祭や天皇皇后の装束への着替えが行われる綾綺殿（りょうきでん）、神楽が行われる神楽舎（かぐらしゃ）、楽師が雅楽を演奏する奏楽舎（そうがくしゃ）、列席者が待機する左幄舎（ひだりあくしゃ）と右幄舎（みぎあくしゃ）、賢所に正対する賢所正門、新嘉殿に正対する新嘉門などである。宮中三殿の祭祀は、明治維新から宮中祭祀の変遷と漸次的集約を経て、教部省が成立した直後の明治5年4月2日（1872年5月8日）に整ったと解されている。

**賢所**には皇祖神天照大神を祀る。その御霊代である神鏡（八咫鏡の複製）が奉斎されている。また「かしこどころ」と読んで神鏡そのものを指すこともある。古代より宮中で祭祀された。掌典及び内掌典が御用を奉り、「忌火」（「神聖な火」の意味）を護り続けるとされる。平安時代は温明殿（うんめいでん）、鎌倉時代以後は春興殿にあった。古代から続くという宮中祭



祀が行われ、現在の皇后、皇太子妃など皇族の妃らを宮中に迎える結婚の儀もここで行われた。その際、后妃が賢所を退出した際に婚姻成立とみなされる。神聖な場所のため穢れを嫌い、「次清」の別などの厳格な規律があるという。

なお、宮中三殿のうち賢所は古代から宮中で奉斎されてきましたが、皇霊殿と神殿は、明治維新以降の宮中祭祀制度の再編成によって新たに宮中に遷座・奉斎されたものです。東京都千代田区千代田 1-1

### 神殿

天神地祇八百万神が奉斎されている御殿で、明治5年3月に神祇省の廃止と共に宮中に遷座したのがその始まりで、三殿の中では最も後に成立しました。前項で記しましたように、明治2年6月、明治天皇は国是の確立を、天照大御神はじめ天神地祇八百万神と、神武天皇から孝明天皇に至るまでの歴代天皇の皇霊に御奉告のため、神祇官に靈代を設け招き祭らしめられ、御拝されました。そして同年、神祇官に神殿を設ける事が決まり、同年12月に仮神殿が竣工し、その中央の座に八神を、東の座に天神地祇を、西の座に歴代天皇の皇霊がそれぞれ奉斎され、鎮座祭が斎行されました。

明治4年8月、神祇官が廃され神祇省が置かれ、それに伴い神祇省に継承された神殿（西の座）に奉斎されていた歴代天皇の皇霊は宮中賢所に奉遷されましたが、八神と天神地祇は引き続き神祇省の神殿にお祀りされました。しかし、翌5年に神祇省が廃止され新たに教部省が置かれる事になり、そのため同年3月、神祇省神殿に奉斎されていた八神と天神地祇を宮中に遷し仮に賢所拝殿に奉安せしめ給う旨仰せ出され、それを受けて同年4月、神祇省の神殿に奉斎されていた八神と天神地祇、及び京都の神祇伯白川家、神楽岡の吉田家斎場、有栖川宮家の旧邸と新邸にそれぞれ鎮座されていた八神を、御羽車に移し、賢所拝殿に奉遷しました。翌5年、八神と天神地祇の両座を合祀して一座とし、「神殿」と改称され、これによって現在の宮中三殿の原型が成立しました。東京都千代田区千代田 1-1



### 東京タワー

竣工/昭和33年（1958） 正式名称は日本電波塔 高さは333m。  
昭和32年（1957）5月、「大阪の新聞王」と呼ばれ当時は産業経済新聞社、関西テレビ放送、大阪放送（ラジオ大阪）各社の社長を務めていた前田久吉により設立。日本電波塔は前田家主導の同族企業となった。  
東京都港区芝公園4丁目2-8



### 築地本願寺

江戸時代の1617年に、西本願寺の別院として浅草御門南の横山町（現在の日本橋横山町、東日本橋）に建立。「江戸海岸御坊」「浜町御坊」と呼ばれていた。しかし明暦の大火（振袖火事）により本堂を焼失。その後、江戸幕府による区画整理のため旧地への再建が許されず、その代替地として八丁堀沖の海上が下付された。そこで佃島（現中央区佃）の門徒が中心となり、本堂再建のために海を埋め立てて土地を築き（この埋め立て工事が地名築地の由来）、延宝7年1679年に再建。「築地御坊」と呼ばれるようになった。

1923年9月1日の関東大震災では、地震による倒壊は免れたが、すぐ後に起こった火災により再び伽藍を焼失。また、58か寺の寺中子院は、被災後の区画整理により各地へ移転。

現在の本堂は1934年の竣工。本堂は日本国政府の重要文化財に指定されている。浄土真宗本願寺派の新体制移行（2012年4月1日付）に伴い、正式名が従前の「本願寺築地別院」から「築地本願寺」になった。これにより、築地本願寺は全国唯一の直轄寺院となる。本尊は聖徳太子手彫と伝



承される阿弥陀如来立像。東京都中央区築地3丁目3-15-1

### 筑土八幡神社

嗟峨天皇の時代（809年 - 823年）に、付近に住んでいた信仰心の厚かった老人の夢に現われた八幡神のお告げにより祀ったのが起源であるといわれている。その後、円仁（慈覚大師）が東国へ来た際に祠を立て（850年前後）、伝教大師（最澄）の作と言われた阿弥陀如来像をそこに安置したという。その後、文明年間（1469年 - 1487年）に当地を支配していた上杉朝興によって社殿が建てられ、この地の鎮守とした。上杉朝興の屋敷付近にあったという説もある。

元和2年（1616年）にそれまで江戸城田安門付近にあった田安明神が筑土八幡神社の隣に移転し、津久戸明神社となった。その後、1945年に第二次世界大戦による戦災で全焼。明神社の方は千代田区九段北に移転し、築土神社として現在に至る。八幡神社の方は現在でも当地に鎮座している。

東京都新宿区筑土八幡町2-1



### 東京ドーム

1988年（昭和63年）3月18日に開場した。日本初の屋根付き球場であり、株式会社東京ドームが運営する東京ドームシティの中核施設である。プロ野球セ・リーグ・読売ジャイアンツ（巨人）が本拠地とする。

東京都文京区後楽1丁目3-61



### 備考

皇居を護る築地本願寺と筑土八幡宮。人の気を集める東京タワーや東京ドームがさらに作られ強固な護りとなった。東京タワーは天皇家の多宝塔だった。



# ユダヤ教団と黒田家と東京タワー



- 宮中三殿 2.63km - 東京タワー - 日本ユダヤ教団 2.63km
- // - 祥雲寺 2.63km

皇居 宮中三殿 賢所 ※前頁参照

東京タワー ※前頁参照



## 日本ユダヤ教団本部

昭和 28 年（1953）アメリカ軍関係者を中心にした日本ユダヤ教団が設立される。シナゴークと呼ばれる教会堂は神戸とニカ所のみ。

〔歴史〕

1894 年 - 長崎に日本初のケヒッター、シナゴークが登場する。

1938 年 - ユダヤ人難民を救出し満州国の住民とする河豚計画（ふぐけいかく）。

1939 年 6 月 - 駐ベルリン満州国公使館書記官王替夫、難民にビザ発給（1940 年 5 月まで、ユダヤ難民含む合計 12,000 人以上）。



1940年7月 - リトアニア在カウナス領事館杉原千畝副領事、難民にビザ発給（1940年9月まで、ユダヤ難民含む合計およそ6,000人）。

1941年5月末 - ソビエト経由でポーランド系の難民が神戸に移住。杉原千畝(1939年から1940年まで)の発行したビザによる難民も含まれている。およそ、6,000人のユダヤ人難民を受け入れた。

神戸のコミュニティーは戦時中大半が上海に移動

1953年 - アメリカ軍関係者を中心の、東京・広尾にコミュニティーが形成される。東京に日本ユダヤ教団が設立される。

東京都渋谷区広尾3丁目8-8

### 祥雲寺

江戸時代初期に筑前福岡藩主・黒田忠之が、黒田藩赤坂江戸中屋敷内に父の黒田長政を弔うために建立したのが始まり。以後、広尾に寺地を移転する。福岡藩や黒田氏に縁のある数々の大名家や武家の墓所となっている。  
東京都渋谷区広尾5丁目1-2 1



### 備考

日本の金融を支配してきたとされる黒田家の墓所祥雲寺を使って、ユダヤ教団が東京タワーに集まった気を引き寄せ力にしている。国民を洗脳・統治するための初代電波塔東京タワーは、実は天皇家とユダヤ人にとっての多宝塔だった。日本=ユダヤの日ユ同祖論、ユダヤ金融マフィア=黒田家の裏付けになる。

